

【要支援者】

- ・要支援者への災害時の避難に不安がある。要支援者から支援を断られるケースもある。難聴の方にどう知らせるか。マンション、アパートの住民に確実に避難誘導や情報伝達が出来るか？
- ・私の地区は、高齢者と要配慮者の割合が多い。組単位で行動するのが困難な状況です。共助が重要かと思いますが、避難訓練でどのような事をすれば良いかなやんでいます。
- ・高齢者が多い地区だが避難所が遠いので心配している。
- ・避難行動要支援者への支援に必要な個人情報の把握とリスト作成・共有。
- ・避難所の運営。
- ・避難支援者等の支援及び確認のとり方。
- ・避難所の立ち上げから運営に係る物的・人的な取り組み。
- ・要支援者との日頃のコミュニケーションがとれない。何か方法があれば教えて欲しい。
- ・年寄りが多い。一人暮らし、足が悪い、耳が遠い等々。
- ・津波で道路が封鎖された場合、障がいのある人や歩行困難者の救済をどうするか。
- ・年配の方の誘導の仕方。
- ・自分で避難できない人への対応。
- ・要支援者の声：要支援者用のトイレがあればよいけど無ければ自宅にいる方がよい。
- ・自助を目出します。次に共助（元気であれば）。公助になってもお世話頑張ります。
- ・要支援者の避難は家族が主体になっている。家族不在時の誘導方法が確立していない。
- ・津久見では地域コミュニティが強く、独居老人を近くの人が、自宅2Fへ避難させ大事にいたらなかったとのこと。大分では班内の人は大体わかるが、要介護、子供の事、障害者の事が個人情報もあり不明です。
- ・要支援者への避難成功例等。
- ・津波発生時、海岸に近い人たち（特に高齢者）の避難をどうするか。
- ・指定避難所が遠い。健常者で徒歩25～30分。高齢者だと40～50分。障害者はもっとかかる。

【適切な避難への課題】

- ・「そろそろ避難を、、、と思った時にはもう遅い」を実感しているが家族で意見がまとまらねば一人だけ避難もできない。日頃からの家族・地域での意識統一感覚を養っておくことも必要だと思っている。
- ・どの程度でどの人を先に避難させるか？
- ・安全な避難経路の確保。
- ・地域連携
- ・避難路の確保が困難（区画整理等がないので道路がせまい、入り込んでいる）
- ・指定避難所（小学校体育館）の開放（体育館の鍵を開ける）時が判明せず、問い合わせ先もない。先の熊本地震の際は避難者をコンビニに誘導した。体育館の鍵を複数で持てば対応ができるのでは。
- ・公的な避難場所として指定されている学校の体育館数が不十分すぎる。トイレ・コンセントの数、トイレ用の水。
- ・避難所運営の訓練がゼロである。大混乱となることが目に見えている。
- ・頭の中で避難経路等はわかっているが災害発生した時おちついて行動できるか？最終的には個人の判断しかないのでは。
- ・避難所の事。
- ・高台避難、津波避難ビル、両方の良い点、悪い点は？

- ・近くに避難場所がない。
- ・今まで被害の経験はないが、建物の老朽化で倒壊の心配がある。
- ・避難所に行ったら、他の場所に行ってくれと言われ、捜し回ったと聞きました。（鶴崎地区）なぜ？
- ・避難所に集まった後、避難所での生活を仕切るのはだれか？だれが世話をしてくれるのか？何を自分で準備していけばよいのか？何がもらえるのか？
- ・ペット同伴は本当にいいのか？
- ・災害の種類に応じた避難場所があることを地域の中で更に周知して頂きたい。
- ・指定避難所（小学校）が大分川に近い。
- ・避難所運営。
- ・マンション内での避難方法（地震の時）
- ・行政の避難場所を安全とは思わず想定外の場所に避難することも必要である。
- ・台風時避難場所、大分市のマップにない。鶴崎地区、鶴崎小学校は津波の避難所ではあるが。
- ・タイミング。

【避難訓練について】

- ・要支援の方の避難訓練等が中々できない。
- ・学校等に集まるだけの避難訓練になっている。
- ・高齢者の避難について（通常の訓練でも参加できていない人）
- ・避難訓練は毎年していますが、顔ぶれが同じ。中高生も町内の行事に参加してほしい。
- ・地震等は避難訓練でやっているが、大災害の時やはり心配。（家の密集地のため）

【地域のリスクについて】

- ・高台の地域の為、逆に避難場所のできることをするのが良さそう。避難所に対応人数は入りきれない。
- ・避難場所が土砂災害の危険場所なので避難しても安全か不安。
- ・避難路に河川が有が、川の状況が早くわかれば良いが。
- ・私の地区では避難所がない。現在、市の指定する避難所に行くことは不可能。
- ・家族がはなれてる時の避難所場所がわからない。不安である。自治会内は家族一同、決めている。
- ・避難場所へ道路の選別。先日の大雨の時道路に増水していたので通れないことがあった。徒歩で探して迂回した。
- ・避難場所の設定が確立されていない。
- ・当方はマンションであり、地域の標高は11mあり水害及び津波の折は上階に避難すれば良いと思われる。問題は地震でエレベーターが止まった場合、非常階段を使うことになるが、その階段が損壊した時どうなるかが心配される。
- ・傾斜のある住宅地における避難について、私が住む団地は大半が傾斜地にあり、道も坂道が多い。そのため、転倒の危険性、側溝から溢れた水に足をとられる等の危険を考慮に入れ、また津波の被害が考えられないため（海拔100m）住民に対して「避難は危険！！」の広報を行っています。その代わりに、家具の転倒防止、ガラスの飛散防止の必要性を説いています。行政にも「津波に対する対策」だけでなく山間部、傾斜地の防災のあり方について広報等行っていただきたい。

- ・戸次地区は戸次中学校が避難所ですが、上戸次の嶺地区は、高台の地域なので避難所に行くほうが危険です。地区の公民館に避難するように指示しています。物資は届かないと聞いていますが、よいですか？
- ・地域の特徴、坂が多く道幅が狭い。
- ・避難場所まで遠くて、逆にそこまで移動するのがかえって危険。
- ・当地区は、区画整理後（平成4年）立派な家が多く、公民館に避難するより、自宅のほうが安全という声が多い。
- ・坂が多く高齢者が多いので避難がすぐに出来ない。

【その他】

- ・早く
- ・9月17日、18号台風でいろんな体験をしました。自分の命を自分で守る。
- ・あぶないと思ったらすぐに避難する事（これが第一）
- ・避難所の複数自治会エリア分け訓練確認は、実施されていますか？
- ・MAP情報がすぐに見えるか？あまり知らない。